

株主通信

2021年 夏号

株主のみなさまへ

日ごろから多大なご理解とご支援を賜り
厚く御礼申し上げます。

代表執行役社長 CEOの綱川です。

当社は本年6月に、3月開催の臨時株主総会において選任された調査者から、当社の第181期定時株主総会(2020年7月開催)が公正に運営されたものとは言えないとする調査報告書を受領しました。株主のみなさまをはじめ、当社のすべてのステークホルダーのみなさまにご迷惑とご心配をおかけする事態となったこと、深くお詫び申し上げます。

今後は、報告書の指摘を真摯に受け止め、外部の第三者の参画も得ながら、速やかに客観的、透明性のある徹底した真因、真相の究明を行い、責任の所在を明確化した上で、再発防止策をまとめ、今後の経営改善に活かし、経営の透明性の一層の確保に努める所存です。

次に、当社グループの今後の経営方針について改めてご説明させていただきます。

まず、社長 CEOとしての私自身の最大の使命は、株主のみなさまをはじめ、お客さま、お取引先さま、従業員など、すべてのステークホルダーとの信頼関係の改善に全力で取り組むということです。ステークホルダーのみなさまとの対話をこれまで以上に重視し、見直すべきことは見直し、お約束したことを言葉だけではなく実行に移してまいります。

これまで推進してきた全社変革計画「東芝Nextプラン」のコンセプトは踏襲します。TSR(株主総合投資利回り)の拡大を目指し、最適な事業ポートフォリオ管理と、コンプライアンス、ガバナンスへの取り組みを継続しながら、財務規律を維持し、株主還元方針を堅持します。

一方で、新型コロナウイルス感染症拡大や米中貿易摩擦など、事業環境の変化が急激に起こっています。また、日本及び世界でカーボンニュートラル、脱炭素社会に対する機運が高まっており、大きなチャンスと捉えています。こうした変化に柔軟に対応しながら、企業価値最大化に向けて適切な事業ポートフォリオの見直しも含めた戦略を再検討し、新しい中期計画を10月にご報告させていただく予定です。

足元の2021年度については、基礎収益力の強化を継続する一方、脱炭素社会へのソリューションやデジタル・データ事業の成長に向け210億円の先行投資も行い、売上高3兆2,500億円、営業利益1,700億円を見込んでいます。

株主還元については、2020年度に実施した年間配当1株当たり80円に加え、追加還元として、1株当たり110円の特別配当と、1,000億円を上限とする自己株式の取得を行います。また2021年度の通常配当は、中間配当、期末配当それぞれ1株当たり40円を予想しています。

東芝グループ経営理念「人と、地球の、明日のために。」の真の実現に向け、あらゆるステークホルダーとの信頼関係の再構築に全力を挙げてまいります。

引き続き、当社の成長に温かいご支援、ご鞭撻を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

2021年7月

代表執行役社長 CEO

綱川 智



1. 第182期定時株主総会

6月25日に開催した第182期定時株主総会において、取締役が選任されました。

会社提案として、古田 佑紀、太田 順司、山内 卓、藤森 義明の4名が退任し、綿引 万里子、ジョージ オルコット、橋本 勝則、畠澤 守の4名を新任取締役として、再任の7名と合わせて11名の選任を提案しましたが、永山 治、小林 伸行については、選任の要件である出席株主の議決権の過半数の賛成を得られず選任されませんでした。

また、ジョージ オルコットは取締役として承認可決されましたが、総会後の体制を踏まえ、あらためて自身の貢献の仕方とその可能性を再考した結果、取締役を辞任するとの申し出があり、これを受理しました。

この結果、合計8名からなる取締役会が総会終了後に開催され、新たに綱川 智を取締役会議長（暫定）に選定し、各委員会の構成も決定されました。当社は、優れた経験を有する人材を独立社外取締役として新たに迎えるべく、株主のみなさまの視点も取入れつつ、入念な調査を開始します。候補者を選定次第、臨時株主総会にて株主のみなさまにご承認をお願いする予定です。

第182期定時株主総会議決権行使結果 (賛成割合)

議案 取締役11名選任の件	
綱川 智	(77.39%)
永山 治	(43.74%)
小林 伸行	(25.32%)
ポール プロフ	(88.22%)
ワイズマン廣田 綾子	(56.31%)
ジェリー ブラック	(78.05%)
レイモンド ゼイジ	(88.08%)
綿引 万里子	(77.49%)
ジョージ オルコット	(67.96%)
橋本 勝則	(77.39%)
畠澤 守	(66.26%)

取締役会として声明を発表しており、こちらからご覧いただけます。



選任された取締役のスキルマトリックスと各委員会の担当

		企業経営	法律・コンプライアンス	会計・監査	多様性	M&A	企業再構築	資本市場	国際事業経験
綱川 智	取締役会長 取締役会議長（暫定） 代表執行役社長 CEO	○				○	○	○	○
ポール プロフ	社外取締役 戦略委員会委員長 指名委員会委員 監査委員会委員	○	○	○	○		○		○
ワイズマン 廣田 綾子	社外取締役 報酬委員会委員 戦略委員会委員	○			○			○	
ジェリー ブラック	社外取締役 報酬委員会委員長 指名委員会委員 戦略委員会委員	○		○	○	○	○		○
レイモンド ゼイジ	社外取締役 指名委員会委員長 戦略委員会委員	○			○	○		○	○
綿引 万里子	社外取締役 指名委員会委員 監査委員会委員 報酬委員会委員		○		○				
橋本 勝則	社外取締役 監査委員会委員長 指名委員会委員 戦略委員会委員	○	○	○		○			○
畠澤 守	代表執行役副社長	○				○			○

戦略委員会について

株主をはじめとするステークホルダーのみなさまのため、企業価値向上に向け、当社の将来について入念かつ客観的な検討を行い、取締役会による意思決定の支援を行うことをミッションとして、取締役会の下に「戦略委員会」を設置しました。社外取締役のみで構成される戦略委員会は、当社が現在保有する資産の全面的な見直しを行い、執行部とともに自己株式取得や配当によるTSR（株主総合投資利回り）の拡大を重視した、将来に向けた事業計画を策定します。長期的な価値創造を実現するためには、投下資本に対して高いリターン創出が可能な領域における成長を中心に、思慮深く規律ある投資が必要です。また、戦略委員会は、当社または当社子会社もしくは当社事業に対する潜在的な戦略投資家及び金融投資家との対話を行います。

取締役会は、株主にとってどのような選択肢があり、またそれらが他のステークホルダーにとってどのような意味を持つのかについて理解するうえで、こうした投資家との対話が重要であると考えています。当社は先入観を持たずこの対話に臨み、利益を伴った成長及び高い株主還元を当社自身で実現できる能力と比較するためのベンチマークとする所存です。

戦略委員会の構成

委員長：ポール プロフ
委員：レイモンド ゼイジ
ジェリー ブラック
ワイズマン 廣田 綾子
橋本 勝則

2. 2020年度通期決算及び2021年度通期業績予想（連結）

5月14日に2020年度通期決算及び2021年度通期業績予想を公表いたしました。概要を抜粋してご紹介します。詳細は、投資家情報サイト内の「決算説明会」のページでご覧いただけます。



「決算説明会」
ページ

2020年度

売上高：年間を通じて新型コロナウイルス感染症拡大による影響を受け、対前年で3,355億円の減収となり、3兆544億円となりました。

営業損益：東芝Nextプランで進めている基礎収益力の強化や固定費削減により600億円を超える改善がありましたが、新型コロナウイルス感染症拡大による減収影響を受け、対前年で261億円の減益となり、1,044億円となりました。

純損益：営業外損益で大幅な改善が見られ、対前年で2,286億円の増益となる1,140億円となり、黒字化を果たしました。

2021年度

売上高：全事業セグメントでの増収を計画しており、2020年度から1,956億円の増収となる、3兆2,500億円を予想しています。

営業損益：増収による増益と、基礎収益力強化の取り組みを継続し、2020年度から656億円の増益となる、1,700億円を予想しています。

（単位：億円）

	20年度 実績	21年度 業績予想
売上高	30,544	32,500
営業損益	1,044	1,700
純損益 ROE	1,140 10.8%	*1,100 *9.8%
フリー・キャッシュ・フロー	385	400

	21/3末 実績	22/3末 見通し
株主資本 株主資本比率	11,645 33.3%	*10,700 *30.6%
Net有利子負債 Net D/Eレシオ	▲78 ▲1%	*1,700 *16%

*業績予想は、2021年度のキオクシア持分法損益の将来見通しを織り込んでいない参考値です。なお、2020年度期末配当および追加株主還元1,500億円の実施を織り込んでいます。

3. 株主還元

2020年度は、1株当たり10円の間配当を実施しましたが、期末配当については、2020年度通期の連結当期純損益が従来公表していた参考値よりも改善したことを受けて、平均連結配当性向30%*以上の実現を基本とする配当方針に基づき、1株当たり70円



としました。これにより、年間配当は1株当たり80円となりました。

「株主還元・配当」
ページ

また、当社は、株主還元方針として、適正資本水準を超える部分は、自己株式取得を含む株主還元の対象とすることとしていますが、2020年度の連結決算の結果と2021年度の業績予想を踏まえ、適正資本水準を検証した結果、約1,500億円の株主還元を行うこととしました。

2021年6月30日を基準日とする約500億円（1株当たり110円）の特別配当を行うとともに、1,000億円を上限として、2021年6月8日から12月31日までを取得期間とする自己株式の取得を行います。

2021年度の間配当、期末配当については、それぞれ1株当たり40円と予想しています。

*当面の間、キオクシアホールディングス（株）にかかる持分法損益は、本方針の対象外とします。

	1株当たりの配当金		
	2019年度	2020年度	2021年度
中間配当	10円	10円	40円 (予想)
期末配当	10円	70円	40円 (予想)
特別配当	-	-	110円
年間	20円	80円	190円 (予想)

4. カーボンニュートラルへの貢献

東芝グループが持つカーボンニュートラルを加速させる技術・ソリューションに先行投資

再生可能エネルギー

太陽光
水力
風力

省エネルギー

パワー半導体
エネルギー
マネジメント

新技術

新型太陽光
CCUS*

水素

*Carbon dioxide Capture,
Utilization and Storage

エネルギーマッチング

系統増強
VPP*

*Virtual Power Plant



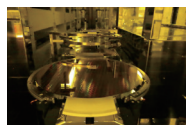
洋上風力発電システム分野においてGEと戦略的提携契約を締結

東芝とGEは、GEのHaliade-X洋上風力タービンの主要装置であるナセル製造を東芝が日本国内で行い、日本でのビジネスを促進するための戦略的提携契約を締結しました。両社はそれぞれの強みを持ち寄り、日本の洋上風力市場の成長に貢献すべく協力します。



パワー半導体の生産能力増強を決定

電力を供給、制御する役目を果たすパワー半導体は、あらゆる電気機器の省エネルギー化に貢献し、カーボンニュートラルの実現に不可欠です。東芝は、パワー半導体の生産能力を増強するための投資を決定しました。



世界最大級の水素製造施設「福島水素エネルギー研究フィールド(FH2R)」

福島県浪江町にある「福島水素エネルギー研究フィールド(FH2R)」は、太陽光発電による再生可能エネルギー由来の電力を用いて水素を製造・貯蔵・供給し、電力系統への調整力も提供する世界最大級の水素製造施設。2020年から実証運転を開始しています。



福島
水素エネルギー
研究フィールド
(FH2R):
NEDO事業



世界最大規模のVPP事業者「ネクストクラフトベルケ」と新会社を設立

バーチャルパワープラント(VPP)とは仮想発電所のこと。再生可能エネルギーや蓄電池などの分散電源を束ねて一つの発電所のように制御し、電力の需給バランスを調整することができます。東芝は、欧州でこのVPP事業の最大手であるネクストクラフトベルケ社と合併会社を設立しました。



投資家情報サイト

IRの最新情報は随時、『投資家情報サイト』で公表しております。是非、ご利用ください。



<https://www.toshiba.co.jp/about/ir/>

Toshiba Clip

東芝の技術や人、事業を世の中のトレンドとともに紹介するウェブサイト『Toshiba Clip』を公開しております。



<https://www.toshiba-clip.com/>

- ・本通信は2021年6月末時点で株主名簿に記録されている株主のみみなさまにお送りいたしますことをご承ください。また、本通信は、2021年6月末時点の事実関係に基づき記載しております。その後の状況の変化等については、反映されておられませんことをご承ください。
- ・本通信に記載されている事項には、将来についての計画や予想に関する記述が含まれております。実際の業績等は当社の予想と異なることがありますことをご承知おきください。

株式会社 東芝

〒105-8001 東京都港区芝浦一丁目1番1号
(03) 3457-4511 (代表)

ご意見は経営企画部 企画・IR室 IR担当宛てにお送りください。

投資家情報サイト: <https://www.toshiba.co.jp/about/ir/>

株式の諸手続きについてのお問合せ先

株主名簿 管理人	三井住友信託銀行株式会社
連絡先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 東芝専用ダイヤル ☎0120-78-6502